

スポーツ随想録 平成十七年八月十五日  
大津の蹴鞠神社 たなか踏基

夏、八月九日に毎年想い出すことがある。

長崎原爆投下の日であること勿論知っている。奇異に思われるかもしれないが、サッカーである。然も足で蹴る平安時代の雅な遊戯、蹴鞠である。

「ジーコ・ジャパン」は、幸いアジア地区予選を突破して、二〇〇六年ドイツ実施予定のワールドカップ出場権を手にした。TV中継を観て、日本中が一喜一憂したのはつい先日のことである。三十二ヶ国への権利、W杯キップを手にした時はファンならずとも、国中が吉報に熱くなっていた。日本の若者は、野球よりもサッカーに熱心で、国外にまで応援に平気で出かける程の加熱振りである。ドイツのミュンヘンで同年六月九日オープニング戦皮切りにして、以後一ヶ月間は世界中のファンが熱く燃えて、ドイツ国内十二都市で開催される熱戦を、固唾を呑んで見守ることになる。

私の中学、高校時代は、未だ蹴球という言葉があつて、サッカーは今日程盛んではないし言葉自体も定着していなかったような気がする。語源は平安時代の蹴鞠にあるようである。足で蹴るという類似点があつても、似て非なる蹴鞠とも言われた遊戯、日本の雅の代表蹴鞠の上の一字を頂戴したようだ。戦時中には全て敵性外来語禁止で、ペーボールを野球、バスケットボールを籠球、バレーボールを排球と呼んだ時代の名残であろう。日本サッカー協会(JFA)の歴史も、大日本蹴球協会(一九二一年)で創立、国際サッカー連盟(FIFA)加入(一九二九年)、戦時中に一時脱退したが、戦後に至り日本蹴球協会名でFIFAに再加入(一九五〇年)、今日の財団法人日本サッカー協会(一九七四年)に改称されている。シンボルマークは、三本枝のやた烏が、サッカーボールを押え

ている図柄が採用されている。日本代表の選手はこのやた烏のエンブレムを着けて戦つのである。

あれは確か平成十四年(二〇〇二年)、FIFA、W杯日韓共同開催の年のことだつたと思う。

埼玉県も開催地、準決勝戦実施ということで県立博物館で記念特別展が開催されていた。展示は「KEMARI 蹴鞠 The Ancient Football Game of Japan」である。春の同窓会行事を兼ね、私は偶然その特別展を訪れた折に、展示品の図録を購入した。

サッカーと蹴鞠は全く異なるものですが、日本に近代スポーツが入ってきた明治時代、サッカーが「けまり」と呼ばれることがありました。図録前半の解説では、サッカーと蹴鞠の関係が縷々こじつけて記述されていた。私は、寧ろ後段解説の古来の雅の遊戯、蹴鞠の記述に魅了された。和歌・蹴鞠「歌蹴両道」の関係を図録から知った。

「若菜上」光源氏の邸宅六条院の庭先で、柏木始め貴公子たちが蹴鞠をする場面がある。蹴鞠イメージは、「源氏物語」に象徴されるであろう。折しも七月二十一日、大学同窓会年一回開催の行事「琵琶湖全国総会」が滋賀県大津市びわこホテルで開催。インターネットの事前検索に寄ると、大津市に「蹴鞠神社」で知られる平野神社があることが判明した。全国理事の立場上、全国総会に参加をした私であるが、時間があつたら、ぜひ「蹴鞠神社」を一度訪問してみたかったのである。

総会終了後、ホテルフロントのお嬢さんに平野神社所在を尋ねたのだが、とんと要領を得なかつた。「ままよ!」と意を決して、ホテル玄関でタクシ-を拾い、運転手さんに尋ねることとした。「蹴鞠神社?」

案の定判らないのである。個人タクシ-の古老の運転手さんが、気の毒がつて親切に無線を使つて、仲間に問合せしてくれた。個人タクシ-であったのは、私にとって幸いした。最終的に判明し、

無事平野神社の庭に立てたからである。あれがもし業者タクシ-の若い運転手さんであつたら、恐らく乗車拒否まがい降るされていたと思う。その位私は執拗に食下がつたからだ。

芭蕉「幻住庵跡」「瀬戸の唐橋」「義仲寺」等を問えば、恐らく人々は即座に伝えてくれたのである。付近著名な琵琶湖浮島堂、三井寺、石山寺、比叡山延暦寺等の古刹は知っているのである。だが、観光都市大津地元の人達ですら、平野神社の存在は流石に知らなかつたのである。

私は、個人タクシ-の運転手さんを待たせたまま、神社境内を巡つた。正に小さい「蹴鞠の庭」であつた。神社正面に「蹴鞠神社」の扁額が掛けあつた。私は、埼玉博物館で上映された、VTRの「アリ・ヤウ・オウ」掛声を発しながら、鞠を蹴り上げる映像場面を庭に重ねていた。

私は、人つ子一人居ない庭から廻つて社務所の戸を開け、来意を告げ宮司に面談を請うた。何と、毎年八月九日、七夕けまり(旧暦)がこの庭で実演されるといふ。宮司和田忠真氏と名刺を交わした。「何故、神社を訪ねてこられたのですか?」

「埼玉県立博物館で実演のVTR観ましたので...」と、来意の経緯を補足説明した。序に、此処を探すのに苦労した旨を述べると、宮司は苦笑しながら、蹴鞠の装具、鞠の庭の儀式図を見せてくれた。「そつでしたか!それはどうも申し訳ないことで...」

わざわざ埼玉から...お越し戴き感謝します。和田宮司は「蹴鞠の説明」といふ冊子で、三猿の神童、春陽花(アリ) 夏安林(ヤウ) 秋園(オウ)が蹴る時の掛声の由来となつたと説明してくれた。御祭神、精大明神 猿田彦命である。

御鎮座地、滋賀県大津市松本一八・二十五  
道まもる神のめぐみも幾夜へり

雨ふりそそぐ松本の宮

了